

首相「改憲議論を加速」 20年施行に改めて意欲！

毎日新聞の報道によれば、第25回参院選の開票作業が22日午後終了し、与党で改選過半数の63議席を超えた。それを受け、安倍首相は自民党本部で記者会見し、憲法改正について「少なくとも議論すべきだという国民の審判は下った」と野党に改憲議論を行うように求めた。また、自らが掲げた「2020年改正憲法施行」について「今もその思いに変わりはない」と強調したという。

この後にくるものは何か？

参院選で勝利したことで、安倍首相は今後、内閣改造・自民党役員人事で党内の求心力を高める一方、衆院解散をちらつかせながら、野党を牽制し、改憲実現を図るのではないかと予測されている。野党にも呼びかけ改憲勢力の「再編」も見据えていることに間違いはないが、シナリオどおりに進かどうかは未知数だとされている。

興味深いのは毎日新聞の座談会で、安倍首相は任期中に改憲をレガシー（遺産）として実現するために、様々な手を使うだろうとの予測が紹介されていることだ。つまり、自民党の改憲に対するメッセージの発し方が変わり、「何を変えるか」から「憲法そのものを変えましょう」になってきた。つまり中身よりも、さしあたり改憲そのものを目的にする、そしてとにかく改憲の実績をつくり出す、それを突破口にして本丸に踏み込んでいくという手法を目指しているのではないだろうか？ との予測がされている。

改憲「自分の任期中にやらせてくれって」？

共産党の小池書記局長がNHKの討論番組で述べている言葉を紹介します。

首相はですね。改憲の発議と国民投票について「期限ありきではないが、私の（2021年9月までの自民党総裁）任期中に何とか実現したい」と。これ、期限ありきなんですよ。「私の任期中に」と言われたら、静かに議論はできないでしょう。そもそも自分の任期中にやらせてくれって。これ、改憲を自分のレガシー（遺産）にするんですか、っていう話してね。こういう中で憲法っていうのは議論する問題じゃないと思う。

安倍首相は今後、自らのレガシーをつくり出すためにも、悲願の憲法改正に向けて突き進むのでしょうか？ 私たちは時々の空気に翻弄されるのではなく、冷静に見つめ考えることが必要だと思えます。

